

日本建築学会農村計画本委員会減災集落計画小委員会  
第9回 能登半島地震ショートレクチャー

# 能登瓦レスキュー隊の 活動について



2025年8月1日

ランドブレイン(株) 紙田和代

# 個人的事情で、震災4日後(1月4日)に珠洲市を訪ねた



地震4日後の奥能登は、建物、道路、山の斜面に甚大な被害を受けていました。建物は壊滅的に倒壊しているにもかかわらず、その上に載っている屋根と瓦は、割れたり折れたりすることなく、もとの形状のままきれいに残っているものが多いのが不思議に思えました。





ガイドライン工法前の建物も  
瓦がきれいに残っていた





# 瓦レスキューの対象は、旧耐震のため倒壊し公費解体の対象となる建物 (ガイドライン工法ではなく、桟木に銅線で括りつけた乾式工法)

## 瓦の緊結方法に関する基準 (昭和 46 年建設省告示第 109 号)

・令和 4 年 1 月 1 日以降、瓦屋根は、以下の緊結方法でふく必要があります

### 緊結箇所

### 部位別の緊結方法

緊結強度は銅線、鉄線<くぎ<ねじ

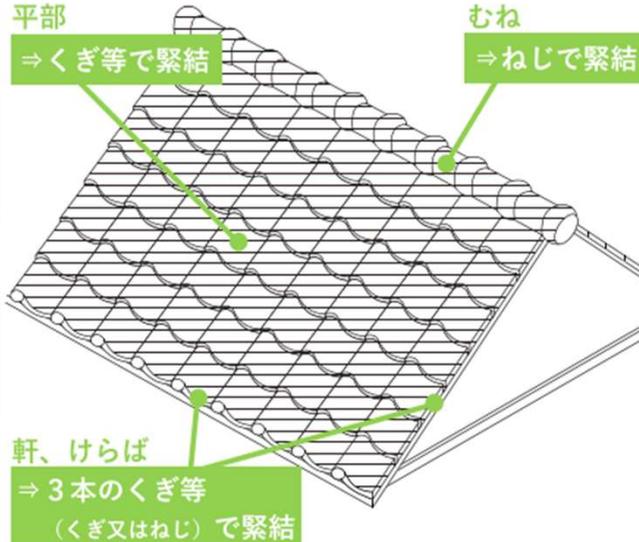
### 緊結方法

これまで

軒、けらば (端部から 2 枚までの瓦)、むね (1 枚おきの瓦)

令和 4 年  
1 月 1 日~

軒、けらば、むね、平部  
**全ての瓦**



これまで

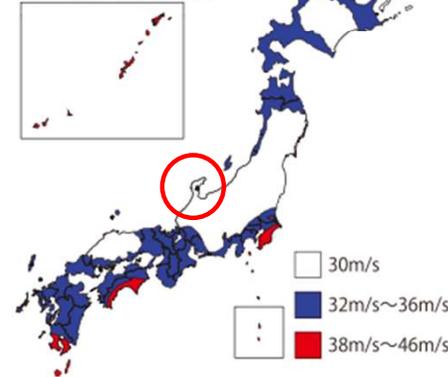
銅線、鉄線、くぎ等で緊結

令和 4 年  
1 月 1 日~

**瓦の種類、部位、基準風速**  
に応じた緊結方法

**耐久性** 屋根ふき材・緊結金物にさび止め・防腐措置をすること (改正前後で変わりません)

### 基準風速の分布図



倒壊した建物で  
採用されていた  
瓦の固定方法

### 規制対象

強風対策 (緊結強化) が  
求められる屋根  
**瓦屋根 (粘土瓦、セメント瓦)**

今回の対象外の屋根  
スレート屋根、金属屋根  
(金属瓦、金属板)

### 平部の瓦の緊結方法

瓦の種類	基準風速 $V_0$	緊結方法
F形	30m/s	くぎ等 2本で緊結
J形、S形	32~36m/s	くぎ等 2本で緊結
防災瓦 (F形)	38~46m/s	使用不可
(J形) (S形)		くぎ等 1本で緊結



瓦を取り外した  
屋根の桟木  
(写真手前)

・上記の他、①②の緊結方法も可能です

- ① ガイドラインの標準試験に合格した緊結方法    ② 告示第 1458 号の構造計算方法により安全性が確かめられた緊結方法

ガイドライン工法パンフレット <817930338D4896B193588CFC82AF817A8AA282CC8BD98C8B95FB964081458360838983568179955C817A83418345836783898343839382A082E85F3231303132352E6169>

発行 一般財団法人 日本建築防災協会 協力 国土交通省 住宅局 建築指導課 / 国土交通省 国土技術政策総合研究所 / 国立研究開発法人 建築研究所 / 一般社団法人 全日本瓦工事業連盟 / 全国陶器瓦工業組合連合会 / 全国 PC がわら組合連合会 編集 株式会社 アルテップ

## 令和6年能登半島地震による建築物の津波被害及び瓦屋根の地震被害 現地調査報告(速報)

能登地方では古くから平部の  
瓦を緊結線などで全数留付ける  
工法が採用されていた！

国土交通省 国土技術政策総合研究所  
国立研究開発法人 建築研究所

### (2) 地震による瓦屋根の被害

- ・ 令和5年5月の瓦屋根の地震被害調査と同様に、ガイドライン工法で施工された住宅の瓦屋根を調査した。震度6強の地震を2回経験した後であっても、ガイドライン工法で施工された屋根瓦に被害は確認されなかった。
- ・ 能登地方では古くから平部の瓦を緊結線などで全数留付ける工法が採用されていたことから、上部構造が倒壊した住宅であっても、その多くの屋根で平部の瓦が脱落していないことを確認した。
- ・ 今回調査した範囲では、比較的古いと見られる瓦屋根であっても、平部の瓦に通常の釘より大きな引き抜き抵抗力が期待できるスクリュウ形状又はリング形状の軸部を有する釘で全数緊結されている事例を確認した。

珠洲市内の瓦の生産事業者(矢野本家さん、上谷大工さん)は、すでに数年前から製造をやめていることを聞き、完全な形のまま残っている多くの瓦を何とかレスキューできないか、と考えた。



# 被災家屋の能登瓦のリユースについて

(仮称) 能登瓦レスキュー隊 加藤・紙田

令和6年1月1日の能登半島地震では多くの瓦葺きの家屋が倒壊しました。倒壊家屋をみると、頑丈で銅線で緊結された瓦は、脱落や破損が少なく再利用可能なものが多数あります。しかし、公費解体が始まり、瓦を取り外すことなく重機で壊してしまうこととなります。



能登瓦の街並み  
(志賀町・被災前)

2007年の震災の際も瓦を残すことなく解体が行われました。解体された瓦は粉々にしてリサイクルされることとなりますが、能登瓦の職人はおらず生産が危ぶまれています。そのため、住宅が再建される際には能登瓦ではない新建材の街並みが形成されることが予想されます。そのため、再利用ができる仕組みがあればよいと考えました。

## 能登瓦のレスキューとリユースの仕組み（構想）

公費解体では、解体前に所有者が必要な家財の取り出しを行うことになっています。

(仮称) 能登瓦レスキュー隊



家屋所有者と覚書を締結し、瓦の取り外し  
(屋根の低い部分のみ3人で1日1棟程度)

家屋敷地内で保存



災害廃棄物の削減



枚数・必要者把握  
能登瓦再利用  
プラットフォーム



同一所有者が  
住宅再建時再利用

能登瓦の  
街並み・文化  
再生

不要の場合、  
他の住宅で再利用

能登瓦とは・・・黒あるいは銀黒の釉薬ドブづけで北陸特有の気候風土に根づいた耐寒性に優れた瓦。材料に能登の水田の土を使い、山の薪を燃料にして、七尾市や珠洲市などの農村地帯で生産されてきた。施工は銅線緊結工法。厚みがあって風、雪に強い。

# 瓦を保存・再利用する動きを作れないか？

そのためには、

- ・公費解体はするが、瓦は取っておきたい建物所有者
- ・建物を再建、屋根を補修する際に能登瓦で葺きたい方

また、

- ・能登瓦で施工したい設計者
- ・能登瓦を有効活用したい屋根業者

がいなければ、この動きができない。

今いるのは、もう2度とつukれない、希少価値のある能登瓦を、とりあえず、1枚でも多く、今のきれいな形のまま置しておきたい、という部外者だけ（・・・私たちのことです）

珠洲市の被災者で避難所運営ボランティアをされている方から、日本財団からボランティアに来ているDrt—Japanの方に一部瓦を外してもらって保存している方がいると紹介を受け、2024年3月10日に訪問しました。その際に、その方に取り外し試行をさせていただきました。



Drt—Japanの方は、倒壊した建物から重機を使って必要品を取り出すボランティアをされており、建物所有者の砂山様の希望による瓦の保存も環境省の「公費解体・撤去マニュアル」<sup>2</sup>に記載されている、必要品の取り出しにあたるのではないかとのご意見でした。

## 公費解体・撤去マニュアル質疑応答集

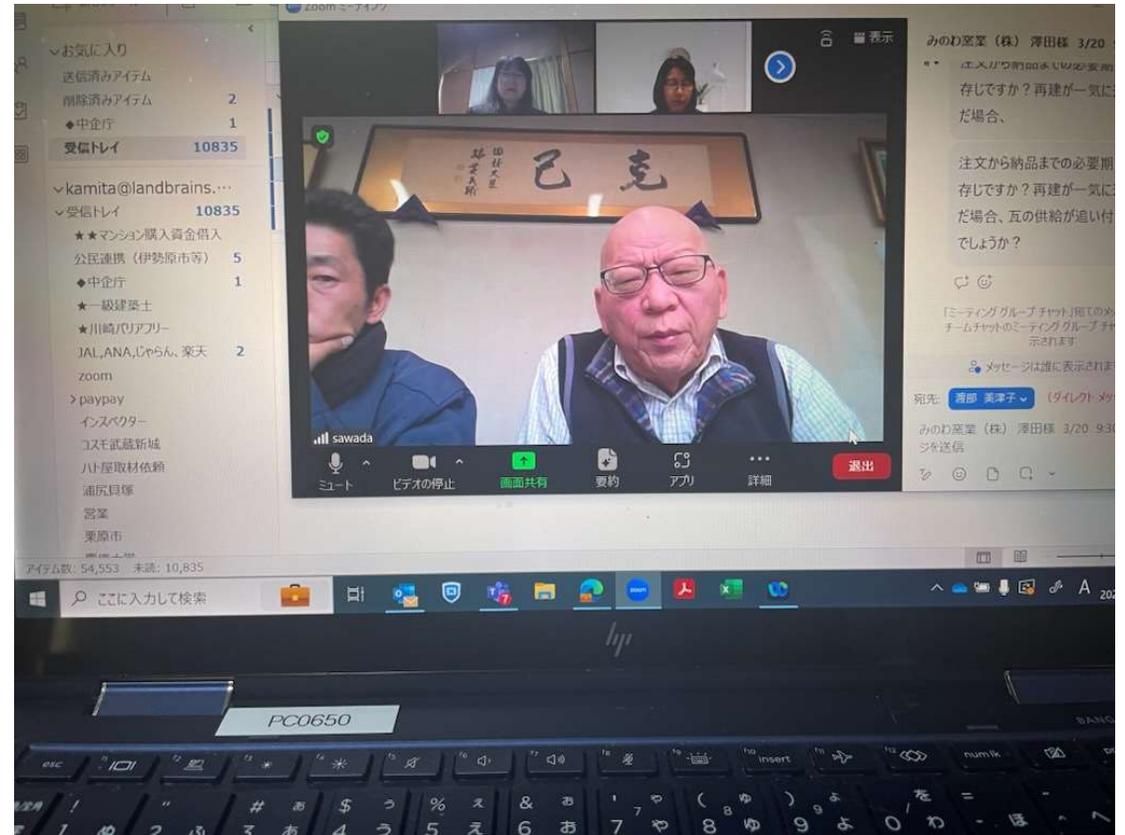
○家屋内に残置された家財・家電等のうち、貴重品や思い出の品など必要なものは、解体工事前に被災者により持ち出す必要がある。

# 3月15日 全国陶器瓦組合連合会 訪問 (瓦を造っている事業者の組合の全国組織)

専務理事の小林様から、小松瓦(小松市や富山県で作っている瓦)の在庫が200万枚あることや小松瓦の年間製造可能量をお教えいただき、瓦製造および屋根工事を行っている、みのわ窯業様をご紹介いただいた。(1軒の家で2~3千枚使用する)

## 3月20日 みのわ窯業さんヒアリング

富山県で唯一の瓦製造会社である、みのわ窯業さんは、瓦の生産から屋根工事まで行っている。  
瓦の形状、取り外し方、保管方法などをお聞きした。



## 能登の瓦の取り扱い説明書

※今後、様々な方面からのアドバイスを受け、内容をブラッシュアップ予定

### ●出発前の準備

《材料の全体量及び用意担当者（仮）》

(敬称略)

パレット (約 1 m <sup>2</sup> )	3 枚 (底面) + 予備 1 枚	4 枚	3 千円 × 4 枚	
PP バンド黒又は青	A 作業 0.7m × 12 × 9 × 3 山 = 227m B 作業 2.5m × 3 本 × 3 段 × 3 山 = 67.5m C 作業 4m × 縦 4 周 × 3 山 = 48m D 作業 4m × 縦 2 周 × 3 山 = 24m	合計 367m → 500m	1 万円	
PP バンド用ストッパー	A 作業 1 個 × 12 × 9 × 3 山 = 324 個 B 作業 1 個 × 9 本 × 3 山 = 27 個 C 作業 4 個 × 3 山 = 12 個 D 作業 2 個 × 3 山 = 6 個	合計 369 個 → 500 個	2 千円	
ラップ (伸びるフィルム) 500 mm × 300m = ¥1,190/本	A 作業 無し B 作業 4m × 2 周 × 3 段 × 3 山 = 72m C 作業 4m × 2 周 × 3 回 × 3 山 = 72m D 作業 4m × 2 周 × 3 山 = 24m	300m 1 本	1,190 円	
ビニルシート (ブルーシート)	1.6 m <sup>2</sup> 3 枚 ~ 4 枚に成形		—	原 紙田
ビニルシート (透明) 上部用	1.6 m <sup>2</sup> 3 枚 ~ 4 枚に成形		—	紙田
緩衝材用ダンボール	1 m <sup>2</sup> × 2 枚 × 3 山分		—	
作業用ダンボール	適宜		—	
ニッパー、はさみ	4 個、4 個		—	加藤
透明強力粘着テープ、マジック等	1 巻、2 本		千円	
ゴミ袋小さめ (現地市役所指定袋)	数枚			
寄せ書き	3 枚		—	渡部

合計 約 26,190 円 + 送料等

20240415  
能登瓦レス  
キューのトリ  
セツを作成

20240415  
能登瓦レス  
キューのトリ  
セツを作成

1. 屋根の上に登り瓦を一枚ずつ、バケツリレーにて地上に降ろす

A 作業者

- ・ニッパー等を使用して銅線を取り外す（廃銅線は一か所に集める）
- ・瓦を丁寧に取り外す
- ・外した瓦を B 作業者に渡す。

◆必要なもの

- ・はしご等の足場 金沢大学の先生方が持参予定
- ・切った番線を入れるゴミ袋 小さめ数枚
- ・ニッパー 4 個程度

B 作業者

A から外した瓦を受け取り、C 作業者に渡す

2. 瓦を1枚ずつ、保管場所（パレット）に運ぶ

C 作業者は、受け取った瓦を置き場所に運ぶ

- ・瓦は両手で扱い、途中、屋根や地面に置く際は、表面を下にする



20240415  
能登瓦レス  
キューのトリ  
セツを作成

4. パレットの上に瓦4枚セットを12個並べ、3列並べる **E作業**

- ・パレット1枚の上にビニルシート（ブルーシート）を敷く、雨の跳ね返りを防ぐために縦横20~30cm程度広めに敷く
- ・1パレット（底面）に、4枚×12セット（PPバンドで緊結）を3列並べる
- ・瓦の細い面を縦にして並べ、瓦が倒れないように人力で支えながら4枚×12セット毎にPPバンド1周
- ・3列横に並べてラップ（伸びるフィルム）で2周、最下段はブルーシートを内側に織り込んでラップで包む

（全体の形状は、96cm×32cm×32cmの『切れてるチーズ』が3本並ぶイメージ）



# 瓦取り対象者探し

珠洲の砂山美里子さんのご尽力により、何軒かの大規模半壊、全壊の方々から、瓦をとっても良い、というお話をいただきました。

瓦の屋根業者が来て瓦を外して運び出し、屋根の解体費用として6万円取られたが、今回の話は、お金の請求はされないのか？と聞いてくる方もいました。



2024年4月20日撮影

瓦取りを容認いただいたのは、瓦の再利用のためではなく、

- ・いずれは解体するから(どっちでもいい)
- ・瓦を外すと野地板だけになり、潰れた住宅の中から必要なものを運び出しやすくなるから
- ・住宅と付属屋以外は、公費解体の対象とならないため、自力解体の自己負担を少しでも削減できるかもしれないから

等という理由でした。

その際の約束として、**取った瓦は不要になったらレスキュー隊の責任で処分すること**でした。(覚書(案)を作成しましたが実際には交わしていません)

# 2024年4月8日 日本経済新聞（抜粋）

株価を検索



## 日本経済新聞

朝刊・夕刊

LIVE

Myニュース

日経会社情報

人事ウオッチ

NIKKEI

トップ

速報

ビジネス

マーケット

経済

国際

オピニオン

もっと見る

能登半島地震に見舞われた石川県の奥能登地域では、光沢のある黒い瓦屋根の家が並ぶ。大きな瓦は凍結による割れに強いが、雪を滑り落ちやすくするため釉薬(ゆうやく)を厚く重ね、海風による塩害防止のため裏にも塗ってあり重い。地元では「能登の誇り」とされてきたが、瓦店の男性は「重い瓦が家をつぶしたといわれても仕方がない」と後悔の念にさいなまれている。

## 重い瓦「家つぶしたか」 能登の誇り、後悔も

能登半島地震

+フォローする

2024年4月8日 12:33



保存



石川県輪島市の門前町黒島地区で倒壊した黒瓦の家屋（2日）=共同

# レスキューした瓦を使ってもらうための工夫

## 施主に対して

- ・再建する方に、価格など瓦屋根にするメリットを理解していただく
- ・再建する方に、瓦が重かったから耐震性がなかった(倒壊した)という誤解を解いていただく

## 施工者に対して

- ・中古の瓦でも、施工に支障がないようにする  
ガイドライン工法が可能な瓦(釘穴が開いている)  
梱包のしかた(取り出しやすい)  
形状別の梱包(使いやすい)

補修に利用しやすいよう、

- ・様々な年代の瓦をストックする形で採取、保存



## 軽い屋根でも地震で倒壊する

スレートや金属屋根でも倒壊することがあります

上の写真は、2016年(平成28年)4月14日の熊本地震で倒壊した住宅です。スレートや金属といった軽い屋根材であっても、住宅全体の耐震性能が低いと倒壊してしまいます。このように、軽い屋根材を使った住宅でも倒壊しており、「瓦が重いから住宅が倒壊した」という風評と矛盾が生じています。

耐震シミュレーションソフト **wallstat** で検証

- ① 耐震診断を伴わない屋根の軽量化は、大地震時に倒壊する可能性があります。
- ② 耐震診断から耐震補強の内容を定めることが重要です。
- ③ 瓦屋根は巨大地震に耐えられる。瓦屋根が地震に弱いというのは間違い。



wallstat での検証について  
詳しくは HP をご参照ください。



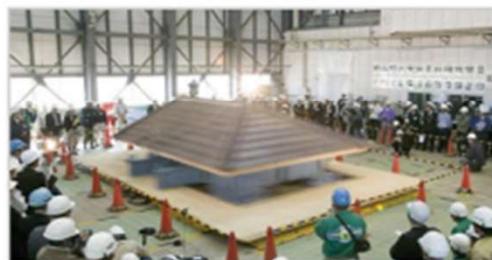
全瓦連 検索

## 瓦屋根は地震に弱いというのは間違いです

住宅の耐震補強は、第一に壁の筋交いや補強用面材による壁の補強、第二に基礎のひび割れの補修や無筋基礎の有筋化、第三に土台や柱下が腐朽している場合における改善・劣化対策が重要であり、最後のその他の項目として壁や屋根の軽量化が有効とされています。（「木造住宅の耐震補強の実務」参照 一般社団法人 日本建築防災協会）2016年（平成28年）4月14日に発生した熊本地震において「新耐震基準適用の住宅においても柱の固定などが不十分な住宅が倒壊したこと」は、これらの対策が正しく適正に行われることによって耐震補強となる証左であります。

### 数多くの耐震実験で瓦の耐震性能が証明されています

これまでも瓦業界では、瓦の耐震性能を検証するため数多くの耐震実験を行ってきました。



茨城県つくば市でガイドライン工法による瓦屋根の耐震実験を実施。各加振ごとに試験体の瓦の状態を確認した結果、瓦の脱落、ズレ、浮き上がり等は一切認められませんでした。ガイドライン工法の瓦屋根は「震度7クラスの地震に耐える強度を有している」ことが証明されました。



『伝統的木造軸組構法住宅の耐震性能検証実験』が（財）日本住宅・木材技術センターと独立行政法人 防災科学技術研究所との共同研究として実施。実物大住宅の性能検証振動台実験で、ガイドライン工法で施工した屋根瓦に損傷は認められませんでした。



ガイドライン工法で施工した切妻屋根を、鉄筋6階建ビルの屋根を想定し、東日本大震災と同等の震動（約4分間）で耐震性を検証。この結果、棟の崩壊や瓦の脱落が認められず、巨大地震に対する安全性が証明されました。

# レスキューした瓦を使ってもらうための工夫

施主に対して

- ・再建する方に、瓦屋根にするメリットを理解していただく
- ・再建する方に、瓦屋根が重かったから耐震性がなかった(倒壊した)という誤解を解いていただく

屋根材の種類

## 屋根材ってどんな種類があるの？

いろいろな屋根材の長所や短所のお話の前に、  
まずは屋根材の種類についてチェックしましょう。

屋根材は大きく分けて3種類。それぞれ異なる長所や短所があります。



### 粘土瓦

粘土を使った焼き物で、釉薬瓦やいぶし瓦などがあります。粘土瓦の全国シェアの約70%が“三州瓦”です。



### 化粧スレート

セメントと人工繊維や天然繊維を加圧成形して製造します。



### 金属

金属系は、ガルバリウム鋼板・銅板などの種類があります。

「知って得する！HOW TO 三州瓦」パンフレットから抜粋

# レスキューした瓦を使ってもらうための工夫

## 施主に対して

- ・再建する方に、瓦屋根にするメリットを理解していただく
- ・再建する方に、瓦屋根が重かったから耐震性がなかった(倒壊した)という誤解を解いていただく

## ■ 瓦は屋根に求められる性能を高い水準でクリアしています

### 耐久性能



瓦は酸性雨や紫外線による色の変化がほとんどなく、他の屋根材に比べ優れた耐久性能があります。

### 防音性能



瓦は屋根を激しく叩く雨音や車などの外部の騒音をシャットアウトする優れた防音性能があるので、静かなお住まいになります。

### 耐火性能



瓦は1,000度以上の高温で焼成されており、建築基準法指定の『不燃材料』です。高い防火性能があり、火災による屋根からの類焼を防ぎます。

### 快適性能



瓦は熱を伝えにくいいため、高い遮熱効果があります。夏は涼しく冬は暖かい、快適な住まい環境を実現します。

# レスキューした瓦を使ってもらうための工夫

スレートやガルバリウム鋼板と比較したライフサイクルコストの安さをアピール

## 他の屋根材と比較した場合の瓦屋根の優位性

■ 瓦はさびない！再塗装不要！30年で約180万円の節約になります



※ J形陶器瓦使用、屋根面積 100㎡の場合。金額、年数はあくまでも目安です。

※ 屋根の塗装費用は1回およそ70万円。仮に住宅の寿命を40年と想定した場合では、3回塗り直しが必要になります。

瓦以外の屋根材のほとんどは塗装しており、このため5～10年で色落ちし、再塗装が必要になります。

それに比べて瓦は、初期費用は高めですが、その後のメンテナンス費用はほとんどかかりません。その結果、トータルコストで見ればとても経済的な屋根材です。

「知って得する！HOW TO 三州瓦」パンフレットから抜粋

# 2024年4月16日

全国瓦工業連合会 副理事長 藤井様から瓦の梱包方法のレクチャーを受ける



平瓦、軒瓦、棧瓦、軒瓦など、いろいろな瓦の置き方、括り方、立て方などをご指導いただいた。  
6月には、実際に現地で触接ご指導いただいた。

# 2024年4月20日

現場で、瓦保管、リユースのためのノウハウを蓄積



# 2024年6月2日

現場で、瓦工事業連盟の重鎮から、瓦リユースのためのノウハウを伝授



# 坂茂事務所、瓦バンク

瓦バンク、坂茂事務所(坂事務所の(原野さんは慶應義塾大学の授業でもともと知り合い。珠洲で瓦取りしていると声掛けしてくれた)

2024年8月 北國新聞

## 珠洲市集会所



### 珠洲市見附島における集会所の建設

8月より珠洲市にて、集会所の建設を進めています。建設地はDLT恒久仮設木造住宅の1~4棟と5~6棟の中間地点にあたります。屋根には瓦プロジェクトで回収した能登瓦を再利用しています。

協力：東京木場製材協同組合



建設風景 (10/29)



建設風景 (10/28)



奥にDLT恒久仮設木造住宅1~4 (10/23)



瓦プロジェクトで集めた瓦を葺く (10/23)



瓦プロジェクトで集めた瓦を葺く (10/23)



珠洲市本住寺にて集めた能登瓦 (10/17)



# 珠洲・西勝寺の瓦

西勝寺の鐘樓の瓦は比較的新しく小さい(53判)



東京から山北、宮嶋、長尾加藤、紙田の5名、プロ指導者の全国瓦工事業連盟の副理事長 藤井様、森様の2名で、納屋の続きと珠洲市飯田町 西勝寺の鐘樓の瓦をレスキューした。

# 珠洲・西勝寺の瓦

パレットが手に入らず、ホームセンターでコンパネと2×4材を購入し、手作りした。



# 能登瓦レスキュー隊の活動

- ・2024年1月1日 令和6年能登半島地震発生
- ・2024年1月4～6日 珠洲市訪問 建物倒壊の現状確認
- ・2024年3月10日 珠洲市蛸島町で取外し試行
- ・2024年4月20～21日 第1次レスキュー隊実施
- ・2024年5月2～4日 第2次レスキュー隊実施
- ・2024年6月1～2日 第3次レスキュー隊実施
- ・2024年7月19～20日 第4次レスキュー隊実施
- ・2024年9月21～22日 第5次レスキュー隊実施  
(奥能登豪雨に遭遇)
- ・2024年11月16～17日 第6次レスキュー隊 瓦を  
都市計画家協会が重伝建の輪島市黒島地区の補修に活用
- ・2025年3月27～28日 第7次レスキュー隊実施
- ・2025年4月5～6日 第8次レスキュー隊実施  
穴水市甲駅、甲地域の民家での瓦活用に提供



# 輪島市黒島地区での活用

2024年11月6日、17日に、都市計画家協会・黒島みらい会議が、珠洲で集めた瓦を使った活動を検討。

この時は、瓦施工業者さんの意見を聞き、爪ありの瓦のみを運搬。実際には、年代をそろえるために様々な瓦を収集することも必要と考える。

## 黒瓦レスキュー活動



20241106  
瓦ストック珠洲市内の下見

NPO 日本都市計画家協会 (JSURP) 北島、江田  
協力：日本屋根外装工事協会 (RWTA) 坂野、佐野、坪井

瓦レスキューは JSURP 会員・紙田さん  
全日本瓦工事業連盟 森さん、藤井さんの協力指導による

珠洲市飯田町



20241117  
珠洲市内の瓦ストックを輪島市門前町黒島へ

NPO 日本都市計画家協会 (JSURP) 北島、江田  
協力：全日本瓦工事業連盟所属 輪銅 (愛知県、石川県穴水町)、今井 (岐阜県)  
JSURP 会員 (ランドブレイン)：紙田さんご夫婦  
黒島みらい会議有志、学生ボランティア

珠洲市飯田町 西勝寺



## 西勝寺の鐘楼の瓦を運搬。

全瓦連有志の積み込み



瓦を提供いただいた西勝寺さんと一緒に



黒島みらい会議の学生ボランティアの協力



黒島・のぞく會館、男瓦ストック

あなみずまちかぶと

# 穴水町甲での瓦とり(丁寧な解体業者さん・学生ボランティアとともに)



# 穴水町で5軒の新築に利用するため、足りない分を 珠洲市から運搬(ボランティアで建築家に協力)



夫婦で  
珠洲⇔穴水を  
2往復した



建築家と穴水の住民の方が依頼し、  
金沢の石材屋さんが  
珠洲から私たちが取った  
瓦の運搬に協力してくれた

# 瓦レスキュー隊の成果

- レスキューできた瓦は、5～6棟で、約3千枚(少ない)。
- 勉強の過程で瓦に関わるいろいろな方とのつながりができた。
- 珠洲、穴水の人々との(コンサルの仕事以外の)交流ができた。
- 輪島市の重伝建地区での瓦修復や穴水町での瓦屋根の新築建物、甲駅の花壇づくりに活用してもらえた。

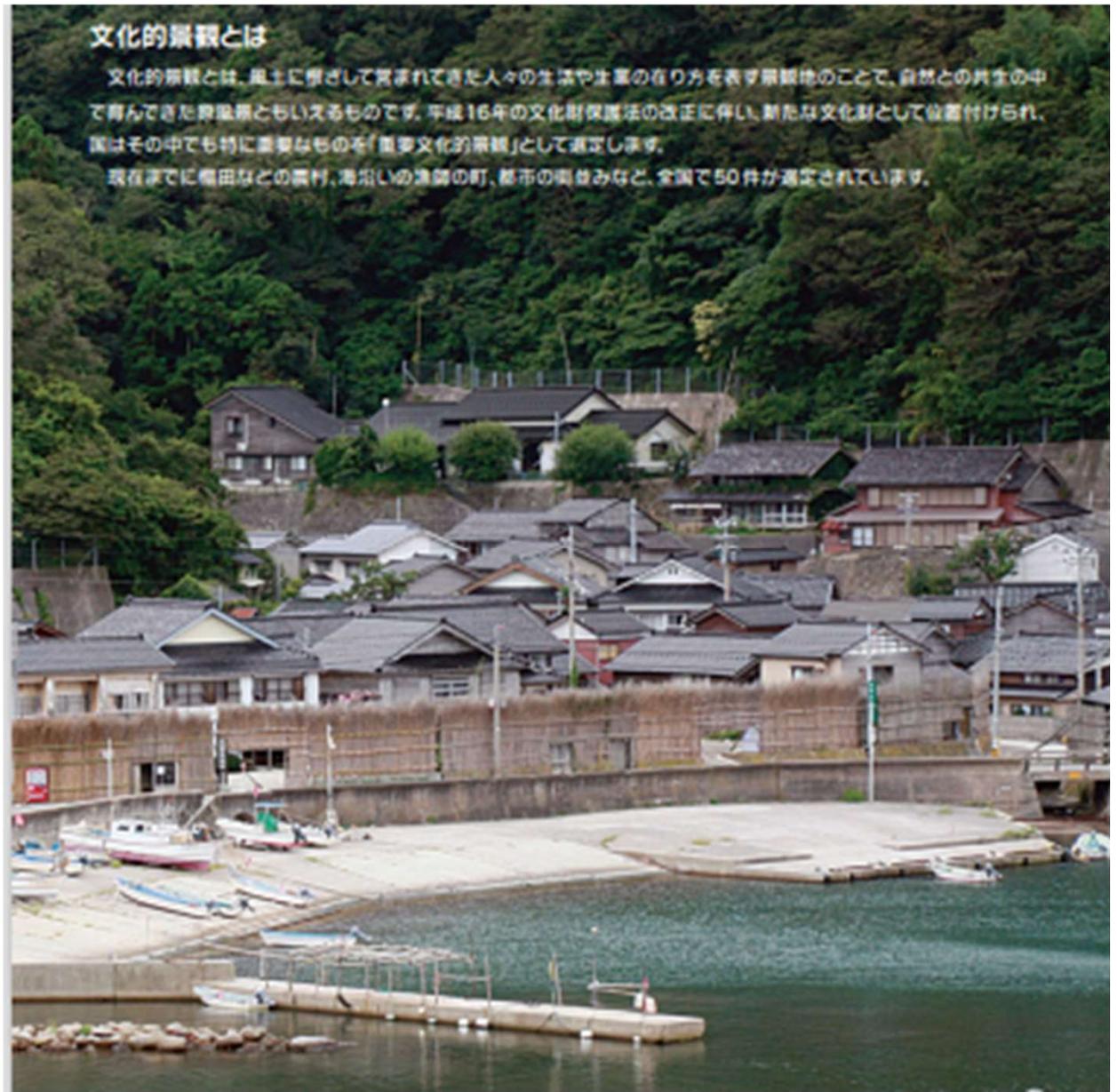
反省点としては、

- 活用するために行っているにもかかわらず、全くニーズが読めていなかったこと。ニーズ自体ほとんどなかったこと。
- 坂茂氏のように自分でプロジェクトを立ち上げることを考え、珠洲の飯田町商店街に大小の和風建築が並ぶ商業施設をつくろうとしたが、商店街の方に商業拠点整備の意向がなかったため、早々に諦めたこと。
- まだ、砂山さんの自宅駐車場にレスキューした瓦が2山残っているのを何とかしなければならない。
- 今後、珠洲の正院や飯田町の街並みがどう変化するのか、心配。

# 能登半島地震の影響で存続の危機にある価値の高いものは瓦だけではありません。

## ・建物

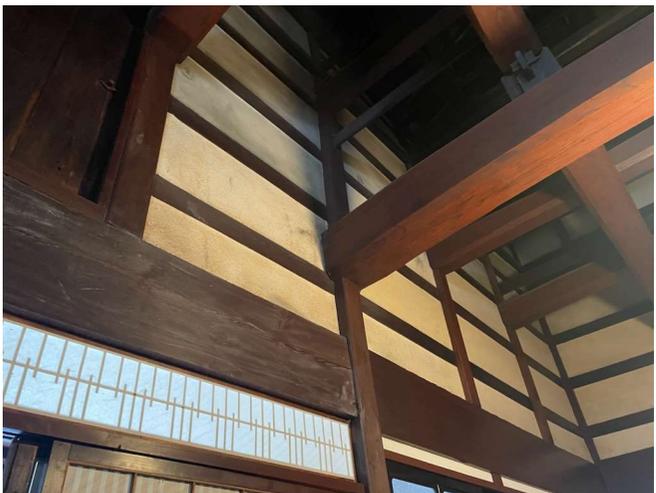
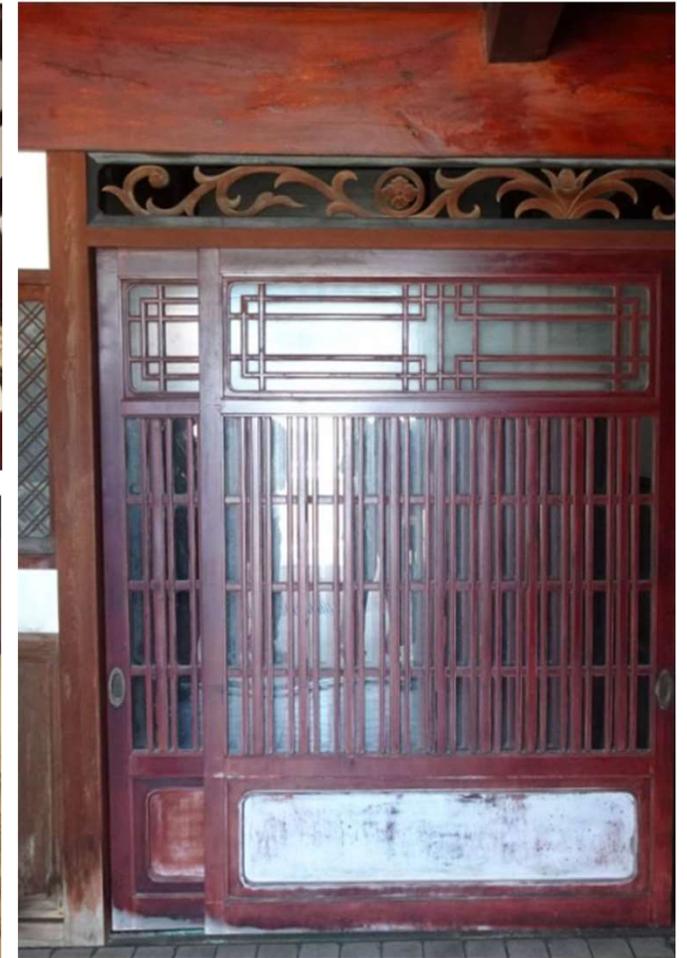
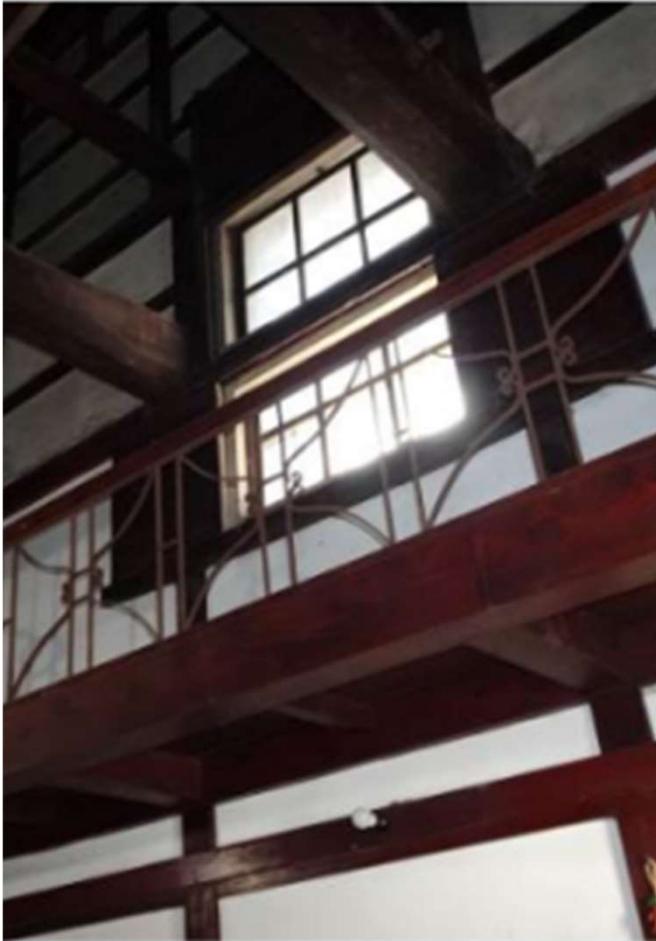
- ・まちなみ
- ・文化的景観
- ・祭り等の伝統文化 など



輪島市  
大沢・上大沢の間垣集落景観  
パンフレットより

輪島市大沢,上大沢「大沢・上大沢の間垣集落景観」は重要文化的景観に選定されている。





能登半島地震の液状化被害により公費解体を申請した  
文化的価値が高い建物をどう守っていくか



能登半島地震

# 被災した国登録有形文化財 解体へ



国登録有形文化財  
被災して解体へ

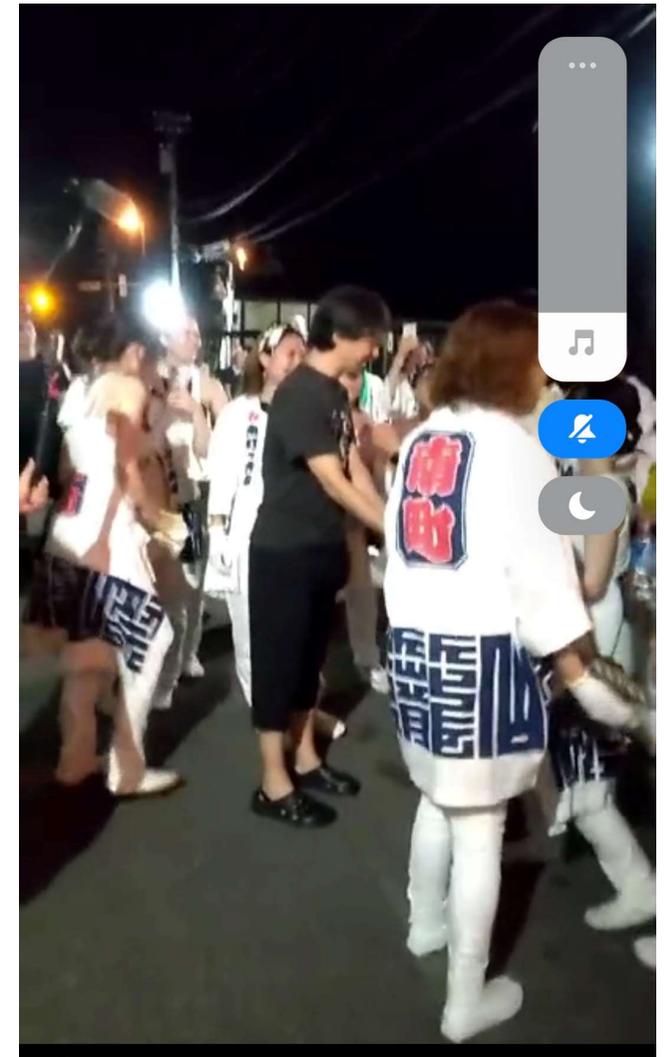
**棚田家住宅**

北前船で栄えた時代の高岡の町並みを今に伝える  
平成9年に国登録有形文化財

輪島市内の大小240ある集落。  
10軒に満たない小さい集落でも、神社、まつりを  
どうしていくか、悩んでいる。



2024年7月20日のまつり(敷地内での曳行のみ)



2025年7月20日のまつり  
(市街地での曳行)

みんな、祭りで元気を  
もらって明日から頑張れる、  
とのことですよ。

大沢地区では、復興支援コンサル(私たち)住家の被災状況に応じた支援制度や(改修工事への融資も含む)高齢者返済特例制度の説明を行ったのち、文化庁の文化的景観の区域内の建物に対する助成制度の説明を、小浦先生、片桐先生を中心に行っていただいた。(市の補助要綱等が必要)  
 (住民の生活再建を主眼に置いた、一般的な災害復興支援と文化庁支援の総合的コーディネートが必要)

4月7日(月)

20面  
北陸総合

住宅に関する支援について説明を受ける住民―輪島市の仮設住宅田町第1団地



# 住宅再建の制度説明

## 輪島・大沢地区の住民に

た。東京輪島会の坂本哲会長は開会式で「日本橋から能登を応援してもらいたい」とあいさつした。

輪島市の仮設住宅田町第1団地で6日、同市大沢地区の住民を対象に、住宅再建に関する公的な支援制度に関する説明会が開かれた。住民約40人が自宅の修理や、公費解体後に新築する場合に利用できる支援金のほか、災害公営住宅への入居条件に理解を深めた。住宅金融支援機構の高齢者向け住宅ローン、いしか

2025年(令和7年)

4月27日(日)

25面  
石川北

# 文化庁が支援検討

## 輪島「間垣の里」再建

大沢地区の住民説明会

国の重要な文化的景観「大沢・上大沢の間垣集落景観」に選ばれている輪島市大沢地区の住民を対象とした説明会が26日、市中心部

支援を検討していることが報告された。支援策は建物の修理に対する補助などが想定される。具体的なメニューは夏までにまとまる見通し。説明会では、建物を守るべく修理するため、公費解体を申請していてもいったん留

保する制度があることも紹介された。説明会では、出席した住民から「生活再建には水道や道路の復旧が欠かせない。再整備を急いでほしい」などの意見が寄せられた。生活再建に向けた説明会は6日に続いて開かれた。



満開となったとんリシマツジ(能登町石井)

「私のまちづくりの片腕として頑張ってもらった」と感謝した。山越氏は「常に最悪の事態を想定した9年間だった。これからは穏やかに過ごしたい」とあいさつした。後任の井上勝文新教育長は28日に就任する。



# 能登半島地震の液状化被害により公費解体を申請した 文化的価値が高い建物をどう守っていくか

リスクを負って参画するなら、保存・修復と、攻めの活用・リノベーションを一致させなければならない。

代々引き継いできた所有者に  
改修や維持管理を行う体力がない  
後で自費で解体すると数千万円かかる

公費解体  
更地を売却か  
更地の一部に新築

(保存を目的とした)購入  
(企業や個人で買うか、  
地域で保有のための組織を作る)

受け皿づくり

活用方法を検討・事業計画作成

担い手、事業企画

(補助金やクラファンを活用し)改修

資金調達

初期投資を回収し、持続的な  
管理をするための運営

破綻しては、守れない

